

SNS 経由で入手される情報のユーザ間差異の可視化

プロジェクトマネジメントコース・ソフトウェア開発管理グループ 矢吹研究室 1242131 吉野聡志

1. 研究の背景

世界的に人気の SNS(Social Networking Service) のひとつとして Twitter が存在する。2015 年 6 月 30 日現在、月間アクティブユーザは 3 億 1600 万人である [1]。

Twitter のユーザは「つぶやき」と呼ばれる 140 字以内の短い記事を書き込むことが可能でまた、他の不特定多数のユーザがそれを閲覧することができる。さらに、つぶやきに返信をすることで一種のコミュニケーションが生まれる。他のユーザのつぶやきを追跡することを「フォローする」という。タイムラインと呼ばれる画面には、自分とフォローしたユーザのつぶやきが同一の画面上にリアルタイムで、時系列に沿って表示される。フォローをするのに相手の承認は不要で、自分が閲覧していない間もタイムラインが常に流れていくことから、ユーザ同士の「ゆるいつながり」が Twitter 上で生まれるとされている。

Twitter を利用するスタイルはユーザによって千差万別で、日々の生活について 1 日から数日程度に 2, 3 回ほどつぶやく人がいれば、複数ユーザとの会話で 1 日に数十から数百ものつぶやきをし、チャットのように利用するユーザもいる。SNS の中でもアクティブユーザ数が非常に多い Twitter に対し、ユーザである人々が顕在的・潜在的に持っているニーズが何であるかが分かれば、他の SNS(Facebook 等) との差別化を図りやすくなり、より効率的なマーケティングの手法を Twitter 社や、Twitter 上に広告を打ち出す企業に提案できるのではないかと考えられる。

2. 目的

今回の研究の目的は、後述する方法で数名の Twitter タイムラインを取得し、各人のタイムライン上に並ぶ単語やそのつながりを可視化して、つぶやきの傾向を分析することである。

3. 研究方法

まず、自らが利用する Twitter アカウントでフォローしているタイムラインを、Twitter の Streaming API を用いて丸 1 日分取得する。

上記の取得が成功し次第、矢吹研究室に所属している 3 年生のうち、Twitter をアクティブに利用しているユーザを対象に、各自同様の方法でつぶやきを取得してもらう。そのデータも分析に利用する。

そして、UserLocal テキストマイニングという Web サービスを用いて単語(名詞・動詞・形容詞等に分類可能)の出現頻度をカウントしたり、単語同士のつながりを可視化する「共起ネットワーク」を表示させ、各人の Twitter タイムライン上にあるつぶやきの傾向を可視化する。

4. 成果物のイメージ

UserLocal テキストマイニングを用いて可視化したつぶやきの傾向から分かること、考察を成果物とする予定である。

5. 進捗状況

Twitter の Streaming API を利用するプログラムを使用し、友人の協力を得て複数ユーザのタイムラインをリアルタイムに取得することに成功した。

6. 今後の計画

今回の研究に携わる矢吹研究室の 3 年生とともにつぶやきを取得したのち、UserLocal テキストマイニングを用いてつぶやきの分析をする予定である。

参考文献

- [1] Twitter, Inc. Twitter, inc. について | about. <https://about.twitter.com/ja/company>(参照 2015-09-16).